



どんな学校？

課程：全日制 総合学科

「10年後、きみは何をやっているのか？」

この答えをみつけるために、1年次で基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、2・3年次では生徒一人ひとりの興味や進路希望に基づいた科目を選択し、自分だけの時間割で学びます。学校だけでなく、学校外の様々な場で学び、生徒が輝くための学校をめざしています。

「輝け! Only One

豊かな学びが、きみをはぐくむ」



どんなメンバー？

学校設定科目

学校

「アントレプレナーシップ」
を履修した生徒(2、3年次)

地域

外部機関(企業)



どんな団体？

学校設定科目「アントレプレナーシップ」

企業などの外部機関と連携・協力し、実践的・体験的な学習活動を通して、課題発見・分析力、プレゼンテーション力、課題をやり遂げる力の育成を図る授業。

1年間の授業の中で、リーダーシップやマーケティング、経営哲学などの単元を設け、各分野の専門家を外務(企業)から講師として招き、課題解決型の学習を行っている。



はじめたきっかけは？

令和元年度、教育委員会E-提案研究制度*1の提案研究校に指定されたことを機に、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざした課題解決に向き合える力を育成するカリキュラムとして、アントレプレナーシップ*2を育成するカリキュラム開発を行いました。

授業では、生徒が自分の考えを広げることができるよう、外部機関と連携する機会を設け、企業の方から事例や課題を伺い、高校生が課題解決方法を提案しました。

生徒がグループワークやプレゼンテーションを行い、ビジネスの諸課題の解決策を模索することで、予測困難で複雑な現代社会の中で、様々な困難や変化に対応し、自ら果敢にチャレンジする姿勢を育成しています。

*1教育委員会E-提案研究制度

県教育委員会が、教職員の意欲と能力の向上を図り、学校の主体的な取組を推進するとともに、教育課題の解決を図ることを目的として実施している制度です。

*2アントレプレナーシップとは

急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神を意味する用語です。

神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課高校教育企画グループ



この冊子はホームページにも記載しています →

すくくこみ!

～コミュニティースクール事例集～



学校名

麻生総合高等学校

活動名

課題解決型学習から
企業家精神を学ぶ
「アントレプレナーシップ」

取組紹介

取組内容

内容	
1	企業家精神を学ぶ「アントレプレナーシップ」を研究・開発
2	外部機関との連携・調整
3	取組の実施
4	成果と今後の展望

1 HOP

令和元年度

令和元年度より、教育委員会 E-提案研究制度の提案研究校に指定され、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざした課題解決に向き合える力を育成するねらいのもと、3年間かけて企業家精神を育成するためのカリキュラム及び評価方法の開発を行った。

2 STEP

令和2年度～

創業した経営者の哲学が、商品開発やマーケティングに継承されている企業に講演をいただいた。

講演で提示された“問い”に対して、生徒が自分たちで解答を提案し、企業からフィードバックされる過程を繰り返しながら、徐々に企業家精神を醸成する。

色彩豊かな事例検討を通して、これから向き合う答えの存在しない様々な課題に、自ら考え、他者と協力して解決策を模索する力を育てることを目的に取り組んだ。

3 JUMP

令和6年度～

・井村屋株式会社、株式会社コメダ、カシオ計算機株式会社など、生徒にとって商品やサービスが身近な企業を招き、PBL (Project Based Learning: 課題解決型学習) を行った。

・テクノロジーを用いて医学の世界でビジネスを行う株式会社サイフーズからは、最新のビジネスを学んだ。

・川崎で活躍する株式会社さくらぎさくらの社長や全国で人材サービスを展開する Realize muse (リアライズミュージズ) の社長をお招きし、講演会を実施した。

・大塚製薬株式会社、株式会社横浜岡田屋、株式会社ブロンコピリー、カゴメ株式会社など、これまで様々な企業から企業家精神を学ぶことができた。

4

FLY

麻生総合高校は、令和8年度に県立田奈高校と再編・統合する。これまで麻生総合高校で取り組んできた外部機関との連携は、新校に継承され、さらに連携を深め、内容を発展させる予定である。

これからも生徒が将来輝くための力をつけることができるよう、夢のある教育活動に取り組んでいく。

生徒の感想

様々な企業の方のお話を聞く中で、進路意識が大きく変わり、その結果、大学で経営学を学ぶことにした。

大学に入学した現在は、地域を活性化させるプロジェクトを行っており、高校時代の学びが生かせていると感じている。

地域の感想

生徒は課題解決に向け、チームを形成して取り組む中で、時には苦労もするが、解決に至る全ての過程が生徒の経験値になっているようだ。起業が最終目標ではなく、社会現象を他者と多角的に考える習慣を身に付け、そこで得た知見を卒業後も生かしてほしい。

先生の思い
実践的・体験的な学習を通して、生徒の社会課題に挑戦する“企業家精神”を育みたい!